香川県教育委員会 6月定例会会議録

1. 開催日時 令和7年6月6日(金)
開 会 午前9時30分
閉 会 午前10時5分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教育長	淀谷圭三郎
委員	藤澤茜
委員	木下敬三
委員	蓮井明博
委員	鳥取美穂
委員	持田めぐみ

4. 教育長及び委員以外の出席者

教育次長(兼)政策調整監	和田友樹
教育次長	吉田智
総務課長	景政孝輔
義務教育課長	西原明
高校教育課長	橋本和之
保健体育課長	高田孝行
生涯学習・文化財課長	持永新
総務課長補佐	三好智久
高校教育課長補佐	西山聡
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	佐伯卓哉
保健体育課長補佐(兼)主任体育主事	荒井憲司
総務課副主幹	尾藤真由美
高校教育課主任指導主事	福家浩一郎
高校教育課主任指導主事	関正英
総務課主任	白井隆司
総務課主任主事	園田恒亮

傍聴人 なし

5. 会議録の承認

5月20日に開催した定例会の会議録署名委員の藤澤委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第3号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

7. 議 案

○議案第1号 高速艇に係る通勤手当に関する規則の一部改正について

総務課長から、令和7年6月1日から、高松港－宮浦港間で運行されている高速艇運賃料金が変更になることに伴い、高速艇を利用した場合の通勤手当額に係る規定の改正を行うことについて諮る旨、説明。

【質疑】 なし

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱について

高校教育課長から、令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱について諮る旨、説明。

【質疑】

＜藤澤委員＞データ入力になるとすごく便利になると思うが、定時制と通信制は今後インターネットの出願システムを入れていくのか。

＜高校教育課長＞非常に受検者数が少ないので、今のところは従来の形で行うが、自己推薦、一般選抜で実施し、様子を見ながら、定時制の2次募集や通信制にも拡大していくか検討して参りたい。

＜鳥取委員＞負担軽減になってよいと思うが、心配されることは何か。

＜高校教育課長＞慎重に進めていかななくてはいけないと思っている。中学生の願書入力の際について、中学校が取りまとめて送信する前に確認するとは思いますが心配している。また、セキュリティ面については、特に心配であることから、システムを構築する中で委託業者と慎重に議論を重ねながら、万全を期してまいりたい。

- <鳥取委員>現場では、出願書類の間違いによる差替があったと思うが、入力データに間違いがあるとどうなるのか。
- <高校教育課長>入力データに間違いがある場合は、一旦受理した上で、中学校に連絡をして、差し戻すことになる。
- <蓮井委員>一般選抜の志願変更受付期間について、昨年度までと比べて、期間が長くなり土日を挟んでいるが、これはシステムの的に可能だからということか。
- <高校教育課長>これまでの志願変更で行っていた中学校の先生が出願先の高校に出向いて願書等を引き戻し、保護者や生徒と相談して、新しい出願先の高校に再度出願していた手間は省けるが、土日を挟んでいるのは、慎重を期すために一定の期間を設けているものである。
- <蓮井委員>土日も受け付けているということか。
- <高校教育課長>そのとおりである。24時間の対応が可能である。
- <蓮井委員>それがICTのメリットだと思う。
- <佐伯課長補佐>ただし、学校現場に、土日の対応を求めているものではない。
- <持田委員>合格者発表について、合否照会サイトはどのように見ることができるのか。一覧表で発表されるのか、それともIDで個人の結果が確認できるようなものなのか。先生方はどのように確認されるのか。また、外部からの嫌がらせなどにより差し替えられたりする可能性などに備えて、それ以外の方法でも確認ができればよいと思うが、どのようになっているか。
- <高校教育課長>システム上で自分の受検番号を入力し、自分の合否だけが分かる形になっている。これまでは各学校で合格者発表を行ったり、インターネットで合格者一覧を公表したりしていたが、今後は行わない予定である。また、差し替えられる可能性に備えた他の方法について、今のところは、システム上で自分の受検番号を入力し、自分が受かっているかどうかだけを確認できる形にしていると考えている。
- <教育長>中学校の先生方はどのように確認するのか。
- <佐伯課長補佐>中学校のIDで確認することができる。自分の学校の出願している生徒の合否が確認できる。
- <教育長>調査書は依然として紙媒体であるが、今後何か考えていることはあるか。
- <佐伯課長補佐>今後については、現在、中学校で校務支援システムの統一が進められており、それが進んできたらシステムに導入していきたいと考えている。
- <教育長>保護者は、今年からインターネット出願になることは知っているのか。
- <佐伯課長補佐>中学校などを通じて周知してまいりたい。
- <教育長>例年より早めに周知してあげないといけない。
- <吉田次長>高校の学校説明会などでも周知してもらえばよい。
- <佐伯課長補佐>現在、私立高校や高専では実施しているので、保護者に大きな負

- 担はないと思うが、周知してまいりたい。
- ＜藤澤委員＞合格者発表の時に、テレビで報道されるような風景が今年度からなくなるということか。
- ＜高校教育課長＞そうである。
- ＜木下委員＞インターネット出願システムについて、他の都道府県でも移行していると思うが、基本となるようなソフトやアプリが存在するのか。それとも、都道府県ごとに作り込んでいくのか。
- ＜高校教育課長＞現在、中国四国地方では広島県と岡山県がすでにインターネット出願システムを導入しており、山口県、島根県、愛媛県は今年導入する。本県においても6月中旬ごろからシステムを構築していくが、県によって入試の方法が違うので、それぞれ違うシステムになっていると思う。
- ＜教育長＞しかし、基本は一緒である。今後、IP連携ができてきて、システムの独自カスタマイズをどのレベルにするかにより相当制約される。システムの独自カスタマイズをあまりするなということだ。
- ＜木下委員＞基本はあるのか。
- ＜教育長＞県内私立高校に入っているのであると思う。
- ＜佐伯課長補佐＞共通の部分があり、その部分をベースに作っていくと思う。
- ＜木下委員＞一からすべて作り込むオーダーメイドアプリだと、高額になり動作検証にも手間がかかり、結果としてユーザもメーカーも釈然としない結果になる。アプリ開発は、できるだけ多くで共有して、開発コストを下げ安定度を高めるのがポイントだ。
- ＜教育長＞作り込んだものだと、更新の際に同じ業者しか取れなくなってしまう。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第3号 令和7年6月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案に対する意見について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和8年4月採用 香川県職員（学校事務（職務経験者型））採用試験について

総務課長から、令和8年4月採用香川県職員（学校事務（職務経験者型））採用試験について、説明。

【質疑・意見交換】

＜持田委員＞6ページの「4 選考日時及び場所」の第1次選考の適性検査の欄の「受検者」だけ他と違って「検」の字になっているが、この漢字が使われているのは、検査だからということか。

＜総務課長＞そのとおりである。適性検査という趣旨で使っている。

○その他事項2 令和7年度スーパーアスリート育成事業について

保健体育課長から、令和7年度スーパーアスリート育成事業について、説明。

【質疑・意見交換】

＜蓮井委員＞実績をもとに指定していると思うが、学年別にみると中学生が少ないのは、結果論か。それとも、基本方針として高校生を重点的に、ということか。

＜荒井課長補佐＞もちろん中学生でも結果が出ている選手は選抜しているが、中学校世代で活躍した選手がトップアスリートまでいけるか判断しづらいところがあり、中学生については慎重に選考している。

＜蓮井委員＞両面があると思う。中学生は、先々の不確定要素が多いが、逆に言えば、養成、育成するという点では、早い段階から取り組んだ方がよい。メリットとデメリット両方を総合的に判断しているということか。

＜荒井課長補佐＞スーパーアスリートに選ぶことができるのは、概ね全国大会で上位入賞、優勝や準優勝ぐらいまでの選手に絞られているのが現状である。それだけ香川県の競技力が向上しているという証ではあるが、そのような中で、中学生はそのぐらいの数しかいないという現状もある。

＜木下委員＞公立私立関係なく、優秀な生徒を指定するのか。いったん指定すると、途中で指定の取消はないのか。

＜荒井課長補佐＞育成事業という観点から、選手側に何らかの理由がない限りは、選考委員会に、選考してほしいとお伝えして選考委員会の中で判断いただいている。例年、一度指定した選手は、例えば中学校から高校に上がるときに香川から離れたとか、けがをして競技ができなくなったなどの理由を除いて、基本的には高校卒業まで継続して育成するようお願いしている状況である。

＜木下委員＞中学生の時に指定するのは、先が長く判断が難しいということか。

＜荒井課長補佐＞指定することで逆に、高校から結果が出ないのに指定されているプレッシャーやストレスなども気になるところであり、慎重に選んでいきたいと考えている。